

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念・方針をより地域に根ざしたものに改訂し、地域との関わりを多く持ちながら、その人らしく生活していけるように努めている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時に唱和し日々実践できるよう取り組んでいる。また職員全体で勉強会を行い、その人らしく暮らしとは何かと話し合い、運営理念の共有・実践に努めている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	新規契約時に理念の説明をしている。また運営推進会議を定期的開催し、御家族や入居者様にも輪番制で出席して頂き、理念の浸透を図っている。		
2.地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方から果物や野菜等いただいたり、畑と一緒に手伝ってもらっている。また入居者様の昔の友人が尋ねて来られたりしている。また鹿部区長にご協力を頂き、隣近所での老人会に出席をさせてもらっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の区長様よりお誘いがあり、地域の老人会へ参加したり、地域のボランティアとして毎月詩吟を読みに来られ、地元の方との交流を図っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム内で勉強会を開き、認知症の勉強を行っている。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で自己評価を行い、評価の意義を理解している。評価については、全体カンファレンスにて話し合い、改善しサービスの質の向上に努めている	○	前年度からの取り組み事項の再確認と今年度から新しく取り組む内容について、職員全体の問題として取り組む体制を取っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で外部評価の結果を報告し、御家族や地域の方からの意見を頂き、質の向上・改善に努めている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会に行き、ボランティアの協力などを得たり行政の方には運営推進会議に出席していただいたり、電話で相談したりしてサービスの質の向上に取り組んでいる	○	市町村との交流の機会をもっと増やしていけるよう努めたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員全体のカンファレンスの年間勉強会の中に取り入れ、職員全体が少しでも理解し説明できるよう学習している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は積極的に職員に教育を行っている。資料を配布し、個々が勉強を行い理解した上で介護に取り組んでいる。また母体病院にて研修が行われ、参加している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだ後、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行い、納得を得ていただいている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中で、聞き取れるよう雰囲気作りに努め、不満や苦情を聞くようにしている。また、運営推進会議に参加していただき、意見を聞き希望に沿うよう努めている。ご意見箱も目立たない場所に設置し、皆様からの意見を反映させる努力を行っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ケース会議や面会時に日々の状況を説明したり、廊下に展示している写真をみていただいたり、安居だよりを送付している。また必要があれば電話連絡を行っている。	○	写真入りの安居だよりを発行しているが、定期的に発行できるように努めたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内にご意見箱を設置している。また常日頃から親しみやすい環境作りに努め、遠慮なく話ができるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体カンファレンスにおいて、意見の交換を行い話しを聞く機会を設けている。また個別にも話しを聞く時間を作っている。	○	職員の生の声を大事にし、出来るだけ運営に役立てる努力を行っていききたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じ、出勤時間の変更また個別ケアを行う際には、必要な人員の確保等柔軟な対応ができている。	○	より一層柔軟な勤務ができるよう、職員の増員に努めたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの職員は、ユニットごとに固定し互いが顔なじみで家庭の延長として過ごせるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	年齢・性別による採否決定は行っていない。幅広い世代の、個々の特徴を生かすことができるよう人員採用に配慮している。また自由に研修へも参加できるよう勤務調整を行い技術向上に努めることができるよう配慮している。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	母体病院でのオリエンテーションにて人権教育等実施している。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の案内は母体病院にきたものを含め関係するものは全て連絡し、ホーム内でも勉強会の機会を設けている。	○	段階に応じた勉強会への取り組みを計画し、実施していきたい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	福岡県高齢者グループホーム協議会での勉強会等に参加し意見交換を行い、業務改善や質の向上に努めている。	○	今年、加入しました。今後も積極的に活動していく予定です。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	定期的に親睦会を実施し、日々の悩みやストレスを言い合える関係ができています。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	向上心を持って働けるよう研修参加資料を提供し、積極的に参加している。		医療法人として人事考課を取り入れ、各職員が働きがいのある職場を目指す。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご入居前にご本人と面談の時間を作り、関係作りを心がけている。また不安なこと等についても一つ一つ説明し、施設の紹介なども忘れずにしている。		
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご入居者様と御家族に当グループホームを良く知って頂き、納得のうえ契約している。		
27	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、担当のケアマネジャーとその時の状況等話し合いながら、対応している。		
28	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならないうちに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人と一緒にホームの見学をすすめている。また御家族の宿泊も含めて、ご家庭の延長がグループホームであるように、ステップを踏んで慣れさせていただく。	○	話題のなかで、趣味等をお聞きしながら共通の話をしながら、徐々に慣れていただくように、今後も行っていく。
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族の一員として接し、多くのコミュニケーションを図り、共に楽しく暮らせるよう努めている。	○	本来のグループホームのあるべき姿として、共同して作業等に取り組んでいただくように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族との会話を多く持ち、どんな小さなエピソードでも日々の状況を説明したり相談の上、ケアを行っている。		
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	ご本人と御家族との関係を理解した上で、面会や外出を増やしていただけるよう努めている。	○	施設に入所されると 御家族との関係が疎遠になりがちな事を防ぐ為、イベントを含め出来るだけ外泊やご家族の訪問の機会を作っていただけるよう努める。
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう 支援に努めている	友人、知人の面会がいつでも行え、馴染みの関係の継続を図り、また個別ケアにて馴染みの場所へ出かけたりしている。	○	個別の対応を今後もっと増やしていく。
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お一人お一人入居者様の性格を把握した上で、食事の席やレクリエーション等配慮している。孤立しがちな入居者様には、職員がかかわり他の方との交流が持てるよう 支援している。		
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院となった方には、職員がお見舞いにいったり 母体病院での入院であれば、ご本人との面会や御家族様との相談も応じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、意向の把握に努め職員間で情報交換を行い、検討して支援している。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や御家族様の話を聞き、その方らしい生活が送れる様支援している。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	コミュニケーション時や体調観察時等に表情や心身状態を把握している。また職員間での情報交換を行い、それを少なくし総合的に把握できるように努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンス時、ご本人の希望をもとに、御家族様の希望や職員の意見を取り入れ、計画を作成するようにしている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直し、また必要に応じて変更プランの作成を行っている。ケアプランの見直しの際は、御家族様にもご参加いただき希望等を聞き作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況、変化、ケアプランに沿った記録を行い、職員間で情報を共有している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体病院との連携を図り、多機能性をより強化した体制が取れている。状況に応じて柔軟な対応を可能にしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアや地域の保育園との交流を定期的に行っている。また消防訓練や救命講習を行っている。又、古賀北中学校の職場体験学習を含め積極的に地域の資源との協力を図っている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ支援の事例はない。ご本人の意向や必要性があれば、支援できる体制である。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループホーム運営推進会議にも参加して頂いて、よりよいグループホームの育成に参画して貰っている。	○	運営推進会議には、定期的に参加いただいているが、今後より一層連携協力を深めていく。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院であるが、あくまでもご本人の意向を踏まえ、かかりつけ医の存在を重要視した医療を提供できるよう心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体病院に専門医がおり、常に相談し必要時には診察を行える体制である。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、入居者様の健康状態に関しては報告・連絡は密に行っている。また母体病院との連携も取れており、いつでも相談できる体制である。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先に出向いたり、医療関係者との情報交換（情報提供書作成）を図ったり、又御家族様にも連絡・相談等行い、連携できている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	身体状況に応じて、御家族様や医師と相談し今後の方針を決定し、実行できるよう契約時を含めて臨機の体制が取れるようになっている。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者様がその人らしく暮らしていけるよう医師・御家族・職員間で話し合い、検討している。御家族には、急変時の対応について協議し、母体病院との連携を図っている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住する際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換や話し合いを行い、ご本人様に無理のない生活が送れる様にしている。またすぐに連絡が取れる体制もあり、不安の解消にも努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1.その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊敬の念を持ち、個々に合った声かけや対応を行っている。個人情報や守秘義務についても入職時オリエンテーション等を通して徹底を図っている。	○	個人情報や守秘義務に関する研修も今後定期的開催する。
53	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を第一に考え、ご本人の意思を尊重したケアを行っている。		
54	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切に無理なく自由に、生活していただけるよう見守り支援している。	○	各人それぞれペースが違ふことを踏まえた介護を提供するように努める。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	御家族と馴染みの美容室へ行かれるのを基本にし、御家族との調整を行う。事情があり、それが無理な方には出張美容サービスが受けられるようにしている。		
56	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ、手伝いをいただいている。もやしの根切り等職員と共に会話を楽しみながら行っている。		
57	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ジュース、バナナ、ゼリー等個々の好まれる物を提供している。また個別ケアにて外食し、生活に楽しみを感じていただけるよう支援している。	○	外食は、とても評判が良いので今後も続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し、排泄の失敗や排泄ケア用品の軽減に努め、快適に生活が送れる様支援している。		
59	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番に入浴希望の方、毎日希望の方、女性職員希望の方等個人に合ったスタイルで入浴を楽しんでいただいている。		
60	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	横になり、読書やテレビ鑑賞したりと自由に過ごされている。安眠や休息時は、そっと見守りを行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力に応じて、役割分担し生活を楽しむことができるよう支援している。		
62	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金より必要時に使用することができ、買い物時など自分で支払いをしていただけるようにしている。	○	外出された時は、できるだけ自分でお支払いをされる様取り組んでいく。
63	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中は常時中庭の散歩ができる。また買い物やドライブ等はバスを準備して、週に一度は出かけるようにしている。		
64	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	希望される場所へ個別で出かけた時、ご家族と外出されたり希望に沿った個別ケアを提供している。	○	最近では、7月22日に志賀島のハイキングと食事を楽しんだ。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話をしたり手紙を出したりできるような環境作りをしている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居心地よく過ごしていただけるよう笑顔での対応、声かけをしている。	○	今後も積極的にご家族への訪問の声かけを行っていく。
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加した職員が資料を配布したり、母体病院での研修へ参加したり、業務の中でも説明指導するなど、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	中庭の入り口は開放しているが、外部門扉は、以前エスケープもあり国道にも近い事もあり、安全性を第一に考え、施錠をしている。	○	地現的な障害が取り除かれなければ、無施錠による介護ケアは困難と思われる。あとは人的な配置強化が考えられるが、非常に難しい問題である。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に動きを把握し、安全に生活が送れる様支援している。また夜間、危険性の高い方にはセンサーマットを使用したり、物音があればすぐに訪室し、転倒防止、安全の確保に努めている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の状況に応じ、ご本人が管理したり施錠で保管したりしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	医療安全委員会や消防訓練等を通して知識や技術を習得し、転倒などの事故防止へつなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	母体病院での救急救命研修等に参加し、知識を身につけている。また緊急時マニュアルを職員全体が、把握しており急変時に対応できるようにしている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	母体病院と一緒に、年に二回消防訓練を行っている。グループホーム独自の夜間を想定した避難訓練も行い、マニュアル作成し全体カンファレンス等で周知徹底を図っている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	御家族様には、状況説明を常に行っており、起こり得るリスクについても話をしている。また職員間でも変化があれば話し合いを行い対策を考えている。	○	今後も起こりうる事故等に対する説明強化を図っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の状態観察、バイタルサインチェックや食事量の確認等を行い、変化があればすぐに管理者への報告を行っている。また全職員が情報を共有できるよう、申し送り表を使用し把握に努めている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表にて、副作用等の症状を確認している。また服薬時には、必ず二人の職員で声出し確認をして、服薬をしている。	○	誤薬の事故がないよう、指差し確認を今後も継続する。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況を把握し、水分補給や腹部マッサージなどなるべく自然排便できるように働きかけている。毎日の食事でも野菜や果物など摂取に心掛けている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後お一人ずつ口腔ケアを行い、口腔内チェックをしている。義歯使用者は、週に一度義歯洗浄剤で洗浄し、清潔保持に努めている。	○	口腔ケアの重要性を今後も認識し、職員一同実行していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の管理栄養士が献立を立てている。毎日の食事量や水分量を記録し、個々の状態を把握している。毎月一度体重測定を施行し、不足している場合には、栄養補助食品を使用している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体病院の病院感染対策委員会に定期的に出席しており、感染対策マニュアルに沿った対応を徹底している。入居者様や職員ともに手洗いうがいの励行、定時に次亜塩素酸消毒を行っている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、生で提供せずすべてに火を通し、提供している。調理器具は、煮沸消毒・乾燥機を使用している。冷蔵庫の温度チェックは一日2回行っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、表札を掲げ分かりやすいようにしている。宅配牛乳の箱が置いてあったり、水槽で金魚を飼い入居者様がえさやりの日課となっている。建物周囲には、草木があり和やかな雰囲気があり和やかな雰囲気がある。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり、お雛様や鯉のぼり等を飾り、和んでいただけるよう配慮している。また光や音にも気を配り、音楽を流すなど心地よく生活していただけるよう工夫している。又木製建具を多用し、ご家庭の延長である雰囲気作りを心がけている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファにて、気の合った入居者様同士、座ってくつろぎの時間が過ごせるように支援している。またオープンな和室もあり、自由に過ごされている。	○	小さなスペースでも良いので、出来るだけ少人数でもくつろげる場所作りを行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持ち込んでいただき、自宅における生活に少しでも近い環境の中で、居心地よく生活ができるように支援している。		
86	○換気、空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎食後、天窓を開け換気を行っている。入居者様の状況に合わせて、室温計を確認し、こまめに調整し、快適に過ごせるよう支援している。各居室は独立したエアコンを設置しており、個別対応可である。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要なところに、手摺を設置している。不必要な障害物の除去、歩行不安定な方には、職員が介助し、安全に過ごせるよう取り組んでいる。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お一人お一人に合わせ、トイレの場所がわからない方には、さりげなく誘導したり、入居者様の行動や表情を常に観察し察知できるようにしている。又性急に答えを求めることをせずに、ご本人の力に合わせた対応を心がけている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるよう活かしている	中庭に花壇を作り、草花を植え、お世話していただいている。また自由に中庭を散歩していただいている。また隣接する菜園では野菜も収穫することができる。		

.サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の 2/ 3 くらいの
			利用者の 1/ 3 くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に 1 回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の 2/ 3 くらいと
			家族の 1/ 3 くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム 安居

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くない
100	職員は、活き活きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の 2/3 くらいが
			職員の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の 2/3 くらいが
			家族等の 1/3 くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

楽しく生活していただけるよう、年間行事と共に個々の希望に応じた個別ケアに取り組んでいます。また様々な分野のボランティアの方に来所していただき、気分転換・活性化を図っています。日々、笑って過ごしていただける様スタッフ一同声かけには、気を配っています。